



開催地を数年ぶりに浜名湖に異してのインカレ個人戦。暖かく、華やかな雰囲気さを感じ出していた昨年までの沖崎オクマビーチとは一転、ここ数年の浜名湖は競走だけが充満する空間と化していた。(写真左上から)ゲート形式が採用された今大会は、ゲート通過後、どちらに行くかが勝負の明暗を分けた。(左頁下)中央はオリンピック最終候補の1人、関東学院大学杉本(11-7)。(左頁中)高木未散(19-11)と学習院大学(7-8)、新田学連NTの対決。(右頁左)ゼネリコを避けるため今大会はスタート1回目からブラックフラッグルールを採用、選手達には厳しい条件のスタートとなった。(右頁右)並みいる4年生勢を抑えて3年ながら2位に入った東海短期大学の平生(81-1)。

REPORT/Takahito Yamanashi (University of Kanto-gakuin)  
PHOTO/Takahiro Suzuki

# 栄冠をかけて

1999  
Nov.30-Dec.2th  
Hamanako  
Suzuoka

## RESULT

### Men's

Pos.	Name	Blongs	1R	2R	3R	4R	5R	6R	7R	Score	
1	上野幸治	甲南大学	9	1	4	15	1	1	1	17	
2	平生健志	東海短期大学	6	5	3	1	3	3	14	21	
3	山崎崇仁	関東学院大学	5	3	2	3	7	8	4	24	
4	飯岡靖武	学習院大学	15	11	11	5	4	5	6	42	
5	小川圭亮	神戸大学	1	2	8	20	20	10	3	44	
6	野村俊光	桜美林大学	2	4	16	10	8	6	18	46	
7	藤井哲生	滋賀大学	24	7	1	7	109	12	2	53	
8	金山淳吾	早稲田大学	11	10	6	9	5	27	15	56	
9	出森茂幹	学習院大学	12	6	10	22	22	2	7	59	
10	高谷敦	早稲田大学	8	12	5	16	10	44	29	80	
11	田中洋	同志社	16	向井謙吾	京都	25	藤沢一郎	東海	32	江草和哉	同志社
12	藤岡純平	京都	19	宇野寛典	法政	26	吉川啓司	滋賀	33	宮林毅	明治
13	村瀬貞介	早稲田	20	中田和樹	法政	27	若山智之	滋賀	34	藤川謙之	甲南
14	大野晋子	日本福祉	21	上島謙一	富山県立	28	藤田佳孝	甲南	35	重石昌史	早稲田
15	藤原治	同志社	22	三輪幸之	京都	29	今川悠道	同志社			
16	井本剛志	甲南	23	吉村孝信	豊原体育	30	大塚誠志	富山県立			
17	杉本浩史	関東学院	24	岩田健太郎	関東学院	31	山口慎吾	京都			

### Lady's

Pos.	Name	Blongs	1R	2R	3R	4R	5R	6R	Score		
1	高木未散	関東学院大学	1	1	1	9	1	1	5		
2	南結愛	中央女子大学	3	8	6	1	2	5	17		
3	清水綾	桜美林大学	5	3	2	3	13	11	24		
4	鳥野佳代	同志社大学	2	11	3	5	10	4	24		
5	青木沙弥香	関東学院大学	6	4	8	4	21	2	24		
6	野口加代子	豊原体育大学	4	2	4	6	22	13	29		
7	平井友美子	桜美林	11	大宮ちひろ	甲南	15	青山優子	同志社	19	森田麻希子	豊原体育
8	久保田陽子	日本福祉	12	大宮幸子	豊原体育	16	山本安希	法政	20	川島大樹	関東学院
9	桐本裕子	甲南	13	大丸麻衣子	富山県立	17	早藤智香	滋賀			
10	小林右星	関東学院	14	野津子月	豊原体育	18	徳高都	桜美林			

事をスタートを決めて、左にカッパリ突っ込んだ上野はそのままピンでフィニッシュ。いや、速い。そしてまたもや2位は村瀬。彼の微風は本物かも。このレースでは元気のなかったNT3年生達も盛り返しを見せた。4位にはみんなのお兄ちゃん飯岡。5位は早稲田の大黒柱、金山。6位にはやっと登場したもう一人のオリンピック候補、緑一色(リュウイソー)杉本が入る。今回はどうした? 投資損いすぎたのか?

ここまでくると優勝争いがおぼろげながら見えてくる。現在トップはワンカットして12Pのケンジ、2位が13Pの僕、3位は15P

の上野。4位以下は混戦の様相だ。しかしまだまだレースは中盤。この先どうなることやら...

午後は北西が4~6m/sと、やや風が吹いてきた。あわよくばこのまま20m/sか?と期待するも残念、そのまま風は上がりきらず第6Rがスタートした。1上は上野、僕、そして学習院NTマジラン聖帝の当番の順で回航。上マークの位置が変わり、左海面のプロウが使え位置に打たれたため、左右の駆け引きが難しい。そんな中、どうしてもピンのはしい僕は2上へ向かう上りで早めに打った勝負ツックが裏目に出て、

2位から8位まで転落。あらら、やってもうた。このレースは上野がまたもやピンで、続いたのは当麻とケンジだった。

第7Rは北西4~6m/s。突然上がった風もあっさり落ちて、また元の風。みんな様々な思いを込めてこの最終レースに臨む。レディスはすでに終了し、海上にはメンズだけとなっていた。スタート後、右から来た僕の顔を切った左のトップはこれまた上野。が、その後の下りはアングラーで上野をまくって下では僕がピンに。ああ、気持ちいい。今度はしっかり右奥に行こう。と、振り向くと「左があんなに走ってる」。2上は楽しかった。4年生4人衆。「このレース何回やあ?」と1上からずっと叫び続けた上野。ごめん、シカトじゃなかったんだ。僕もマジで知らなかった。オガパン曰く「たぶん2回やで」。そしてここぞとばかりにキャッホーと叫ぶは、おサルの哲。みんな長かったね、ここまで来るの。楽しい4年間だった。でもそんなに僕を抜いて行くなよ...。上りは左だったのに、下りは右だったんだ...

4本のピンを取って、終わってみれば上野の文句ナシの優勝。やっぱりヤブは通かった。「今回は勝負する相手が多すぎて苦戦した。でも、やっぱり俺やっとな、哲ちゃん。団体でリベンジ待ってるぞー」とは彼の弁。ケンジを筆頭に負けたみんなは団体戦でリベンジしなくては。そう、流行語大賞もリベンジだった。来年こそはカリスマになれるよう頑張ろう。

## レディスは高木未散の優勝 6R中5Rをトップフィニッシュ

誰が優勝候補高木未散に給むか、レディスの戦いはそれが最大の見どころだったと言っていただろう。が、いきなり予想を裏切るかのごとく第1R、トップで1上に現れたのは同志社鳥野佳代。後ろに恐怖を感じつつも独走状態の彼女は思った。「逃げ切れる」。しかしそれつかの間の夢。フィニッシュライン目前、2下を回航しようとするその瞬間だった。「ルーム」。レディスを邪魔するメンズちょっと遅いぞ軍団の声ではない。可愛い声、ミッテルだ! しょ

っぱなからミチルは本気モードだったらしい。「やられた...」。ミチルの逆転ピンに佳代ちゃんははやくしかなかった。

第2、第3Rもミチルは独走でピン。吹いていたこともあって、誰も彼女の走りには絡めない。そして初日終了時には新トップのミチル以下は、総合2位がガッパこぎで男も寄せつけないからサゲマン(?)学連腕相撲チャンプ清水綾、3位が下りのブローを掴む4年生ならではの上手さを見せた豊原体育大の野口加代子となっていた。(初日終了時点成績/1位 高木未散 3P、2位 清水綾 10P、3位 野口加代子 10P)

ノーレースの2日目をはさんで最終日。微風の第4R、ここで今大会ミチルから唯一のピンを奪ったのが中京女子、ニューカレドニアでストリップ線に助走いされた(?)南純愛だった。1上から終始他を寄せつけず、そのままフィニッシュまで独走。続いて2位には日本福祉大の最軽量パンプマシン、久保田陽子が入った。

バックトゥバックの第5R、風は微妙に上がり始めた。ミチルの復活に対し、純愛も2位を死守して追走する。そして3位は桜美林のカバチタレ、平井友美子が食い込んだ。午後の第6Rも中風で風が安定するとユミコは速く、1上は断ピン。しかし、その後は下先行で左に突っ込んだミッテルが、やはり2上で追いついた。下りでは確実な順速重視の走りでもトップに立ち、そのままフィニッシュへ。危なげなく5本目のピンを飾ったのだった。

最終レース目前にして、突然の強いブロー。あわや20m/sかの勢いにレディスのレースはここまで。第6Rを最終としてレディスのインカレ個人戦は終了した。結果、99年レディスを制したのは、ニューカレドニアから帰国直後にもかかわらず、さっくりとワンカット全ピン優勝をかっさらっていった高木未散。経験量と実力を見せつけた速さだった。

99年度インカレチャンプとなった上野と高木の2人はハードなスケジュールにも負けず、このインカレの3日後、シドニーでのオリンピック最終選考に向けて旅立っていた。僕から全学生を代表して、あらためてメッセージを送りたい。優勝おめでとう、そして頑張る。